R0605TomioMaruyamaAweb.pdf

【鉄の話題】古代史の謎「空白の４世紀」を解き明かすのか？　奈良市富雄丸山古墳出土の鉄遺物【Ⅰ】

[NHK スペシャル]「相次ぐ新発見！蛇行剣や盾形銅鏡から見えてきたヤマト王権のすごさ」を視聴して

古代史ミステリー 第２集 ヤマト王権 空白の世紀　2024.3.22. 視聴

https://infokkkna2.com/ironroad2/2024htm/iron20/R0605TomioMaruyamaAweb.pdf

■【映像資料 奈良市富雄丸山古墳出土の鉄遺物】５分間に凝縮した「Ｎスペ５min」より整理転記

https://www.youtube.com/watch?v=NsMpX5cieuA

NHKスペシャルの魅力を5分間に凝縮した「Nスペ5min.」。

『古代史ミステリー第2集　ヤマト王権　空白の世紀』のダイジェストをご紹介する。

■ 添付 富雄丸山古墳 第６次調査 現地説明会資料　2023. 1.28 & 29. 奈良市教育委員会　埋文センター

https://www.gensetsu.com/20230128_tomio-maruyama/20230128_tomio-maruyama.htm

---

「古代史の謎を解くカギ「空白の４世紀」に何が！？“国宝級の発見”東アジア最大の「蛇行剣」や前例なき「盾形銅鏡」が明かす驚きの技術革新。

史上初の統一国家「ヤマト王権」の力の秘密は？韓国で見つかった“謎の前方後円墳”。

風雲急を告げる東アジアの動乱。危機に挑む「倭の五王」の秘策は？宿敵・高句麗との激闘の行方は？

最新科学や実験でダイナミックな戦略を徹底検証。

私たちの国のルーツに迫る壮大なミステリーの幕が開く！」と興味津々の番組紹介テープが連日流れました。

奈良県と大阪府の県境　生駒山の北山麓　奈良市丸山　富雄丸山古墳から　相次ぐ新発見

国宝級といわれる蛇行剣や盾形銅鏡が発掘された

新聞や TV で連日報道。　関西の古代史ファンにとっては久しぶり　興味津々のニュース

この３月発掘調査が進み、出土遺物の取り出し作業の中で、さらなる発見が出たと新聞・TV でも大きく取り上げられた。

NHK BS で　この　富雄丸山古墳から出土した「相次ぐ新発見！蛇行剣や盾形銅鏡」を取り上げた「NHK スペシャル」が放映。

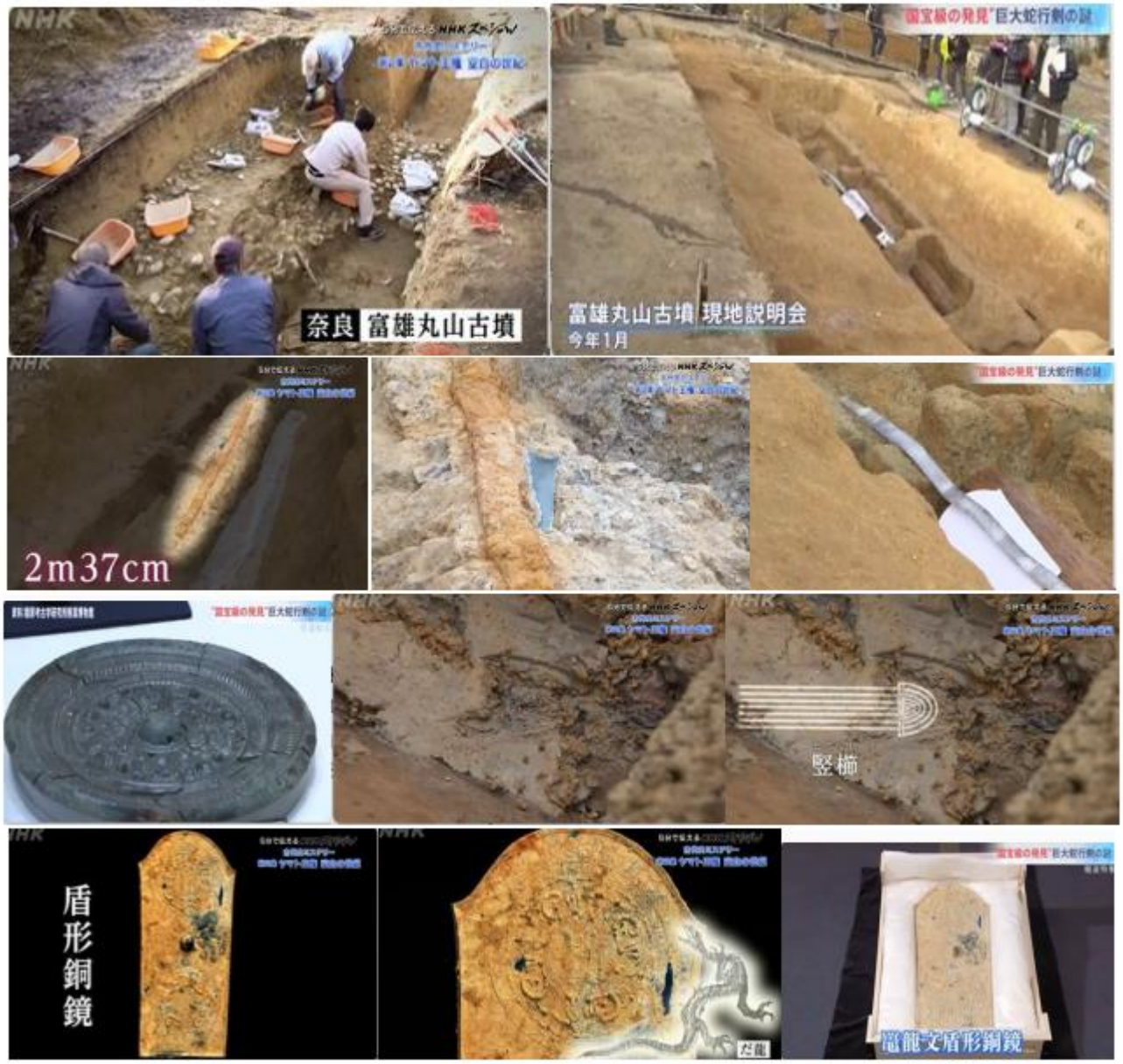
和鉄の道・の Iron Road にとっても、富雄丸山古墳の今の全容を知る願ってもない番組。

また、「畿内の鉄器空白の４世紀」と呼ばれる鉄鍛冶・実用鉄器製作の革新期に迫る番組

興味津々で見ましたので、視聴した番組の切り抜き Photo ですが、資料記録をかねてのご紹介

2024.4.25.　From Kobe　Mutsu Nakanishi

富雄丸山古墳の発掘調査の状況

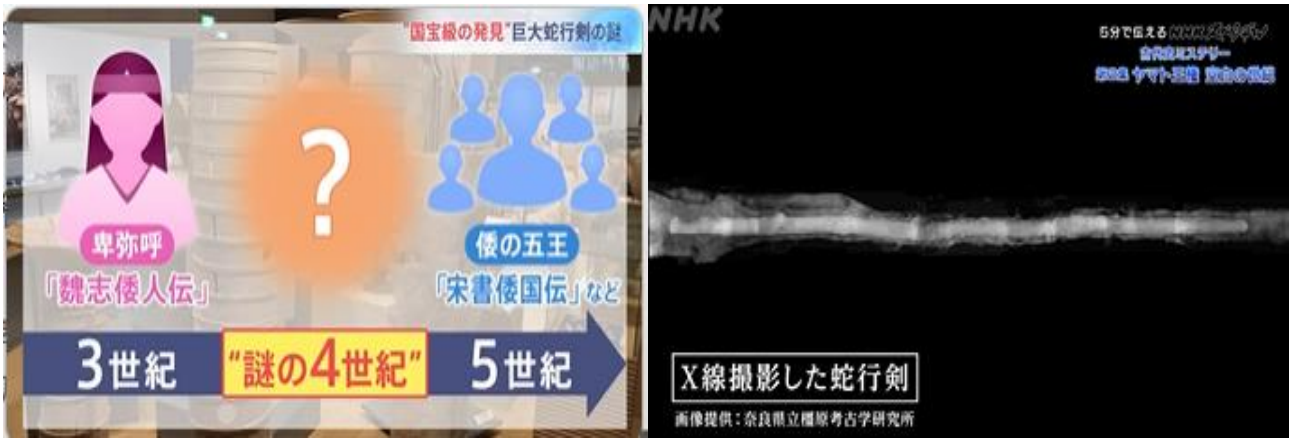


「国宝級といわれる富雄丸山古墳から出土した「長尺蛇行剣」「盾形銅鏡」

遺跡からの取り出し保存処理の調査が進む中で、相次ぐ新発見!! & 空白の４世紀の謎?が見えてきた
　ヤマト王権のすごさに迫る古代ミステリーが解き明かされる」との予告にびっくりし、興味津々。
まだ調査ははじまったばかりで、事実検証はまだこれから。

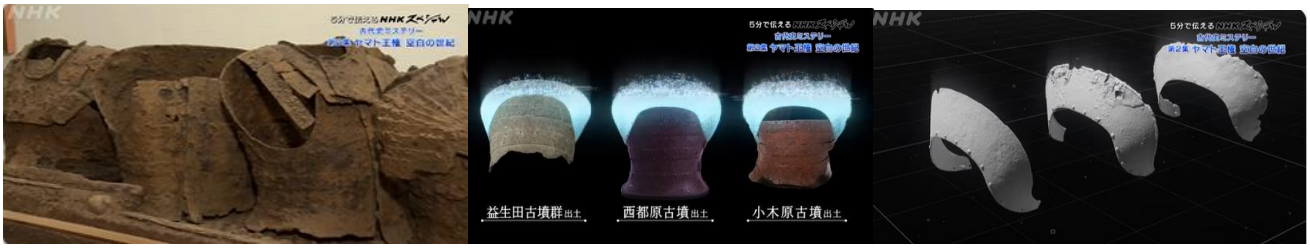
番組が伝えるほどセンセーショナルに「空白の４・５世紀の謎」が解き明かされたわけではありませんが、
富雄丸山遺跡から出土した蛇行剣や盾形銅鏡の全容がしっかり描かれていました。
また文字のない時代　謎に包まれた卑弥呼邪馬台国の時代から、朝鮮半島との交流の中で、
日本の国造りが始まる初期大和王権の古墳時代。
朝鮮半島の鉄素材を大量輸入して技術革新と共に実用鉄器製作が日本各地に広がってゆく
でも、その実像が見えぬ日本の鉄器展開　謎の４世紀。畿内では鉄器なき空白の４世紀と呼ばれ
ることもある。弥生の原始鍛冶・低温鍛冶から高温鍛冶へ鉄の時代の画期の実像へ　鉄のロマン一杯の映像の数々。
まだ、考証がなされたとは言えないでしょうが、製作者たちのロマンあふれる映像ストーリーに興味津々。
「空白の世紀」と呼ばれる初期大和王権の４・５世紀
まだ、日本に製鉄技術がなく、朝鮮半島の鉄素材に頼り、実用鉄器製作が広く展開されてゆく時代へ
そして日本での製鉄が始まる５世紀の後半へ。鉄の謎のロマンも解き明かしに期待一杯の番組でした。

2024.3.25.　From Kobe　Mutsu Nakanishi

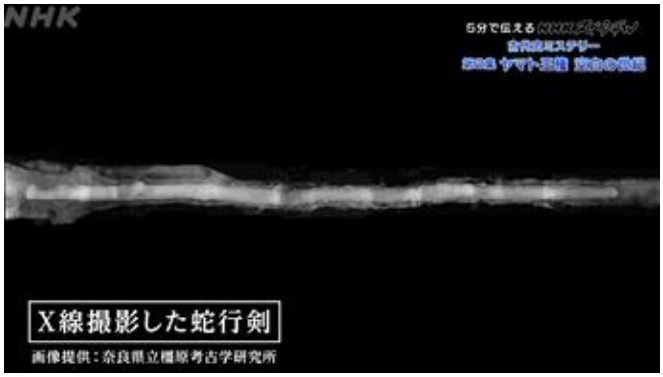


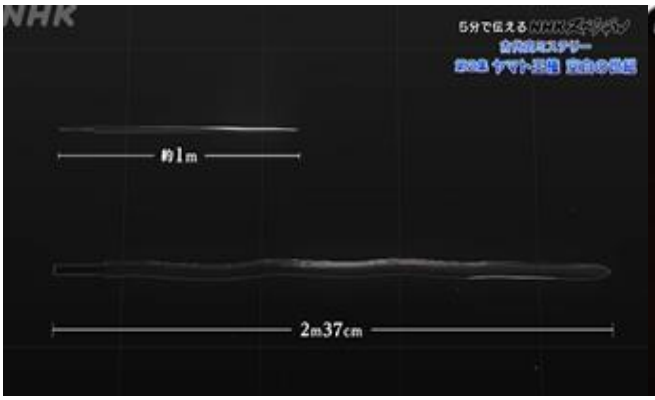
保存処理 橿考研のＸ線撮影で、間違いなく一つの鉄素材から作り出されたものと確認　４世紀の最高傑作
長さ 2m37cm の長尺　日本を含め、東アジアで発見された最も長い蛇行剣　他に類がないという
４世紀 日本独自の鍛冶技術科が既に生まれていたのではないか・・・・本当なら定説を覆す大発見???

４・５世紀は大和王権の時代　朝鮮半島の鉄素材を求めて日本が半島に進出した時代
一方　朝鮮半島は伽耶・百済・新羅の三国時代　中国・高句麗の圧力も受け、戦乱の時代
日本の出兵と共に半島からは数多くの渡来人　先進技術が日本へ　馬が日本に入ったのもこの頃



朝鮮半島の武具にはない特徴　同じ型の武具部品　高い技術を持った量産型武具部品等専用鍛冶工房の存在が浮かび上がってくる。 出土はいずれも九州の遺跡　高温鍛造の先進鍛冶技術を持つ北部九州の技術がもう九州では根付いて広がりを見せているのだろうか?





考研のＸ線撮影で、一つの鉄素材から作り出されたと確認された蛇行剣
2m37cm の長尺　日本を含め、東アジアで発見された最も長い他に類がない４世紀の最高傑作
この蛇行剣を製作には鉄素材を何度も高温で加熱して、鍛造して引き伸ばしてゆく高温鍛冶炉と成形の鍛冶技術がいる。　日本の何処でどのようなプロセス・鍛冶技術が使われたのか？興味は広がる。
弥生時代の大鍛冶工房遺跡と言われる淡路島五斗長垣内遺跡でも既存技術での高温鍛冶が試されている。
一方　北部九州では朝鮮半島の先進鍛冶技術を取り入れた高温鍛造による成形技術が確認されている。
４世紀に突如現れた他に類を見ない蛇行剣　　日本の鉄鍛冶技術が新しい時代に入ったことを象徴しているのかもしれない。また、北部九州にはじまった高温鍛冶の展開とこの蛇行剣の関係についても興味津々
また、この富雄丸山古墳の埋葬者も新しい鉄鍛冶技術につながる人物なのかもしれない。

日本初の統一国家であるヤマト王権、
前方後円墳を数多く作り、高句麗と戦ったことなどはわかっているが、その多くが謎に包まれている。
そして、現在 ヤマト王権に関する発見が相次ぎ、奈良県の富雄丸山古墳からはこれまでに発見例のない盾形銅鏡も発見され、そのデザインもまた世界に類を見ない。
古代史の謎を解くカギ「文字のない空白の４世紀」に何が起こっているのだろうか！？
“国宝級の発見”東アジア最大の「蛇行剣」や前例なき「盾形銅鏡」が明かす驚きの技術革新。
史上初の統一国家「ヤマト王権」の力の秘密は？
韓国で見つかった“謎の前方後円墳”。そして風雲急を告げる東アジアの動乱と日本と朝鮮の交流と日本の朝鮮進出。
倭の五王とは？　そして、日本・河内に馬が持ち込まれたのも５世紀
私たちの国のルーツに迫る壮大なミステリーの幕が開き、大きく広がってゆく。

どうも番組の制作者たちのロマンを追ったストーリー建てに乗せられているのかもしれません。
でも古代の鉄に興味を持つ者にとっては、そうあってほしいなあ・・・・・と。
私の頭の中では　日本国内はまだまだ高温鍛冶が広く行き渡らず、量産前提の生産鍛冶現場も出てきていない。
でも　こんなに議論を巻き起こすほどの富雄丸山古墳からの出土品。今後の展開が楽しみ。
そんな意味で　鉄のロマンを追う者にとっては興味深い番組でした。

インターネットには５分にまとめられた番組の紹介映像、ご興味があれば・・・・
[NHK スペシャル]　古代史ミステリー 第２集 ヤマト王権 空白の世紀
相次ぐ新発見！蛇行剣や盾形銅鏡から見えてきたヤマト王権のすごさ |
【映像資料　ＮＨＫスペシャルを５分間に凝縮した「Ｎスペ５min.」】
https://www.youtube.com/watch?v=NsMpX5cieuA

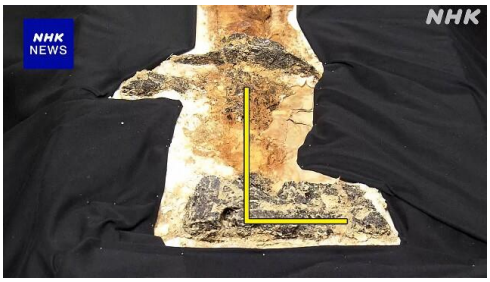
****

NHK ニュース　2024 年 3 月 26 日 17 時 15 分

奈良 富雄丸山古墳の「蛇行剣」の「つか」 特殊な形とわかる

４世紀後半の富雄丸山古墳出土の「蛇行剣」は後の時代の剣の特徴を持つ先進性
https://www3.nhk.or.jp/news/html/20240326/k10014402871000.html

奈良市の古墳で、古代の東アジアで最も長いとされる鉄剣「蛇行剣」が見つかり、持ち手部分の「つか」が、のちの時期の刀と剣の特徴をあわせ持った特殊な形をしていたことがわかりました。
専門家は、古墳時代の刀剣類の変遷を知る上で極めて重要な資料になるとしています。



古墳時代の４世紀後半に造られたとされる奈良市の富雄丸山古墳では、令和４年度の調査で、古代の東アジアで最も長いとされる長さ２メートル 30 センチ余りの波打つような形「蛇行剣」と呼ばれる鉄剣が見つかり、奈良県立橿原考古学研究所で表面のさびや泥を取り除く作業が行われてきました。

その結果、持ち手部分の木製の「つか」は、
▼「把頭（つかがしら）」と呼ばれる先端の部分がアルファベットの「L」のように曲がっているほか、
▼「把縁（つかぶち）」と呼ばれる刃に近い部分の片側には突起がついていることが、新たにわかりました。
（下の写真の〇の部分）
L 字形の「把頭」はのちの時期の刀に、「把縁」の突起はのちの時期の剣にみられる特徴で、双方をあわせ持つ「つか」が見つかったのは初めてだということです。
また、剣をおさめていた木製の「さや」の先端には、長さ 18 センチほど、直径 2 センチほどの細長い棒のようなものがついていました。
刀剣を立てて置く際にさやの先が直接地面に触れないようにする「石突（いしづき）」ではないかと考えられていて、古墳時代の刀剣で確認されたのは初めてだということです。

古墳時代に詳しい奈良県立橿原考古学研究所の岡林孝作 学芸アドバイザーは、「古墳時代の刀剣類の変遷を知る上で極めて重要な資料になる」と話しています。
この「蛇行剣」は、3 月 30 日から 4 月 7 日まで、橿原市にある奈良県立橿原考古学研究所付属博物館で、一般に公開されます。

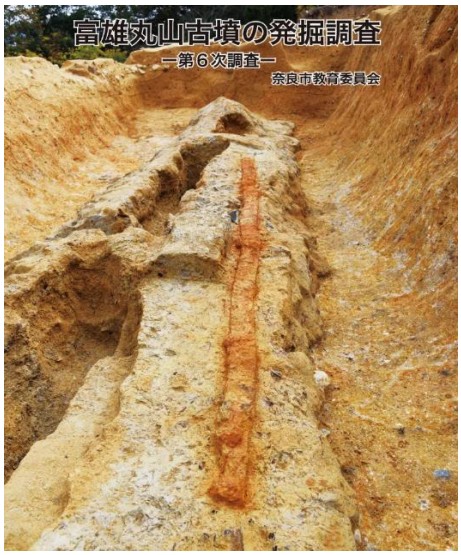
古代の刀剣に詳しい奈良大学の豊島直博教授によりますと、今回明らかになった「蛇行剣」の「つか」のように先端部分がアルファベットの「L」の字のように曲がった形になるのは 4 世紀後半に造られたとされる富雄丸山古墳よりのちの時期 5 世紀の刀の特徴だということです。
　また、「把縁」と呼ばれる刃に近い部分の片側に突起がつくのも同じ 5 世紀の剣の特徴だということです。
豊島教授は「刀と剣、それぞれの形が定型化する前の試行錯誤の段階でつくられたのではないか」としたうえで、「ものすごく大きな蛇行剣は儀式や儀礼で使う特別な剣だと思われるが、そこに取り付けられていた『つか』や『さや』も特別な形のものだったことで、この剣の特殊性がさらに強調されることになった」と話しています。

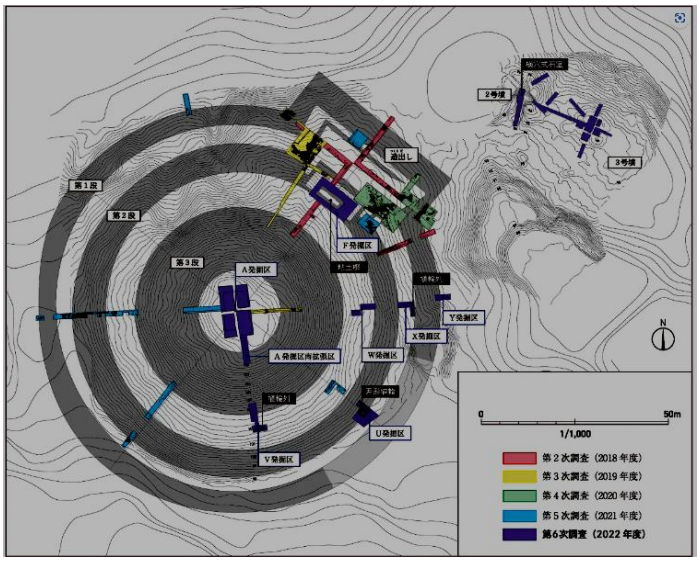
【鉄の話題】古代史の謎「空白の４世紀」を解き明かすのか?　奈良市富雄丸山古墳出土の鉄遺物【1】
[NHK スペシャル]「相次ぐ新発見！蛇行剣や盾形銅鏡から見えてきたヤマト王権のすごさ」を視聴して
古代史ミステリー 第２集 ヤマト王権 空白の世紀　2024.3.22. 視聴
https://infokkkna2.com/ironroad2/2024htm/iron20/R0605TomioMaruyamaAweb.pdf
■【映像資料 奈良市富雄丸山古墳出土の鉄遺物】５分間に凝縮した「Ｎスペ５min」より整理転記
https://www.youtube.com/watch?v=NsMpX5cieuA
NHKスペシャルの魅力を5分間に凝縮した「Nスペ5min.」。
『古代史ミステリー第2集　ヤマト王権　空白の世紀』のダイジェストをご紹介する。
■ 添付 富雄丸山古墳 第６次調査 現地説明会資料　2023. 1.28 & 29. 奈良市教育委員会　埋文センター
https://www.gensetsu.com/20230128_tomio-maruyama/20230128_tomio-maruyama.htm

添付　富雄丸山古墳 第６次調査 現地説明会資料　2024.4.15.　資料転記整理

2023 年（令和５年）１月 28 日（土）、29 日（日）　奈良市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センター

https://www.gensetsu.com/20230128_tomio-maruyama/20230128_tomio-maruyama.htm

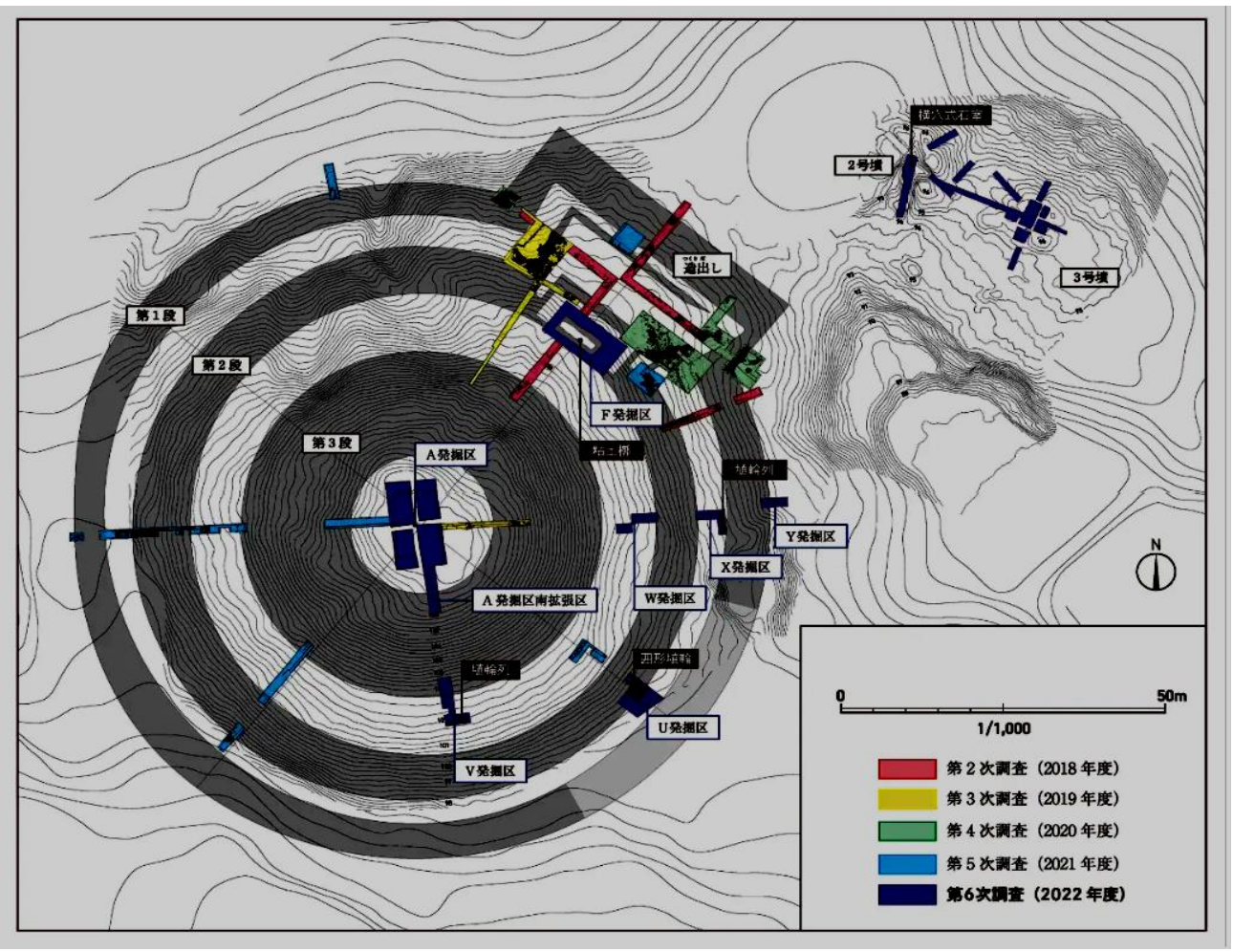




蛇行剣出土時の写真　　富雄丸山古墳の位置

はじめに

富雄丸山古墳は、1972 年に奈良県教育委員会が発掘調査を実施し、墳頂部に粘土槨（埋葬施設）のある大型円墳であることが判明しました。明治時代に盗掘された副葬品は、現在京都国立博物館に所蔵され重要文化財に指定されています。奈良市教育委員会では 2017 年度に航空レーザ測量（第 1 次調査）、2018 年度から発掘調査を行い、直径 109m の造出し付円墳（日本最大の円墳）であることがわかりました。



発掘調査成果

造出しの調査　F 発掘区

長さ約 7.4m、幅約 3m、深さ約 1m の長方形を呈す墓坑内で長さ約 6.4m、幅約 1．2m の粘土槨（埋葬施設）を確認しました。造出し上面の　礫敷を埋めた面から墓坑が掘り込まれており、墓坑を埋めた後に円丘部 2 段目斜面を完成させています。そのため、築造当初は計画されていなかったものの、古墳が完成するまでの間に埋葬施設を作るよう計画変更が行われたとみられます。
粘土槨内部にはコウヤマキで作られた割竹形木棺が残存しています。
棺身は、墓坑底を一段深く掘りくぼめた部分に設置されているとみられ、棺蓋をのせる位置の約 30cm 外側の範囲を粘土と砂で薄く整地しています。
円丘部側の被覆粘土中には、鼉龍文盾形銅鏡 1 面と蛇行剣 1 本が副葬されていました。
鼉龍文盾形銅鏡は長さ約 64cm、幅約 31cm で蒲鉾状に棺蓋を覆う被覆粘土の形状に合わせて斜めに立てかけられていました。背面中央に紐があり、その上下には和僑に認められる鼉龍鏡の図像文様が確認できます。ほかにも鋸歯文を中心とする文様があり、類例のない銅鏡です。表面が平滑に研磨されており、倭鏡工人が製作したとみられます。
鼉龍文盾形銅鏡をブロック状の粘土で埋めてその上に水平面を作り出し、長さ約 267cm の蛇行剣が副葬されていました。日本最大の鉄剣でもあり、蛇行剣としては最古例です。刃部幅は約 6cm ですが、蛇行しているため部分的に残存する鞘の幅は復元で約 9cm あります。柄頭・柄口・鞘口・鞘尻には有機質の装具痕跡が残存していました。

鼉龍文盾形銅鏡出土状態（F 区）

鼉龍文盾形銅鏡

円丘部の調査　　A 発掘区

南拡張区墳頂部に壇状の遺構があるかを確認するために設定しましたが、確認できませんでした。

湧水施設形埴輪検出状態（第５次：Ｕ区）

Ⅰ段目埴輪列出土状態（Ｘ区）

Ｕ　発掘区
第５次調査で一部を確認した湧水施設形埴輪を伴う遺構の再確認を行いました。
その結果、埴輪を設置した高まりは２段目斜面に取り付くことがわかり、南東側を溝で区画していることがわかりました。

Ｖ　発掘区
３段目斜面の葺石は流出していましたが、２段目平坦面の小礫敷が残存していました。
また、３段目裾から約 4m の位置で円筒埴輪列を確認し、２段目埴輪列が一周めぐっていたことがわかりました。

Ｗ･Ｘ･Ｙ 発掘区

Ｗ 発掘区では ２ 段目が崩れて埴輪列等が確認できませんでした。
Ｘ 発掘区ではⅠ段目平坦面の埴輪列を確認し、
Ｙ 発掘区では概ね想定位置で古墳の裾を確認しました。

２・３号墳の調査

富雄丸山古墳の北東側隣接地には、1972 年に奈良県の発掘調査で確認された富雄丸山２・３号墳があります。
２号墳は横穴式石室をもつ６世紀後半の円墳、３号墳は埋葬施設が確認されず不明確でした。
奈良市が実施した航 空レーザ測量では、２・３ 号墳が連結するひとつの前方後円墳にもみえることから、旧発掘区の再調査を行いました。
その結果、両古墳の間を区画する溝がないこと、３ 号墳は盛土があるものの埋葬施設がないことが判明しました。
測量成果をふまえれば、２号墳が後円部、３号墳が前方部となる前方後円墳である可能性があります。

石室

発掘調査体験 × 学生との協働調査

約 334 名の参加を得て発掘調査体験を実施したほか、包括連携協定に基づく奈良大学生、東京・筑波・大阪・京都府立・龍谷大学で古墳研究を行う大学生と協働して発掘調査を実施しました。

展示遺物

３分撮影Ｘ線写真を１枚に合成

円筒埴輪

円筒埴輪

円筒埴輪

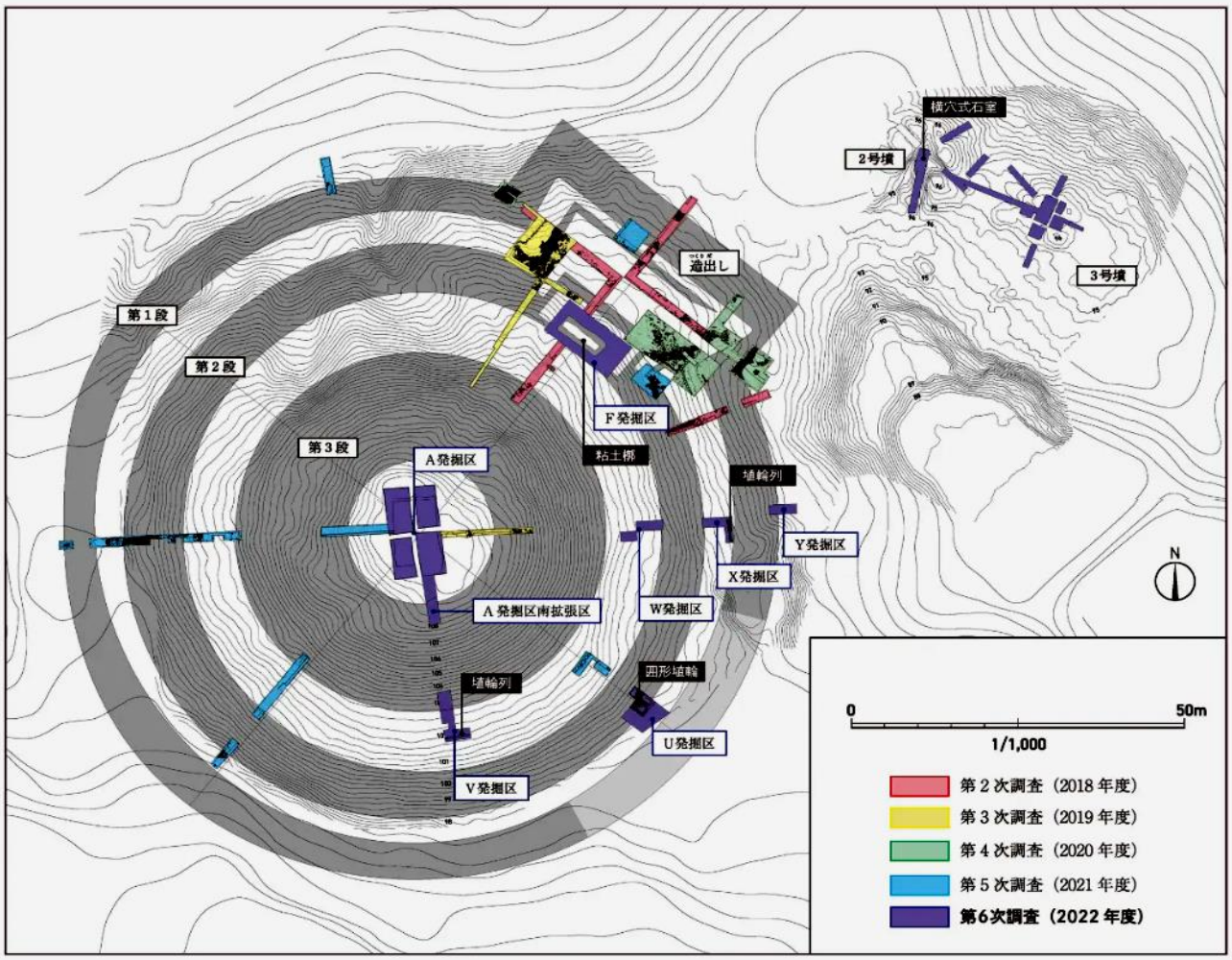
発掘現場写真

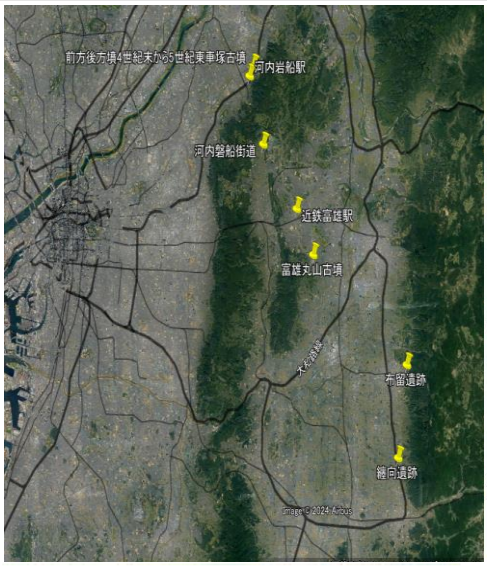
Y発掘区　北から

Y発掘区　西から

Y発掘区　西から

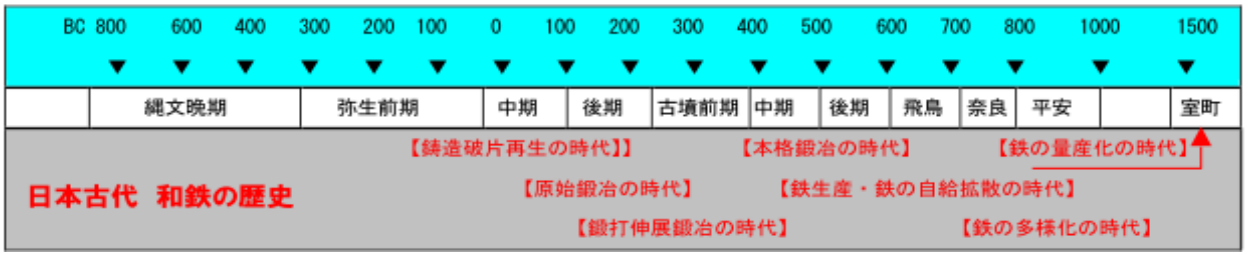
X発掘区　東から





富雄丸山古墳の位置と５世紀前後の大阪湾・河内湖の位置と大和王権の位置関係をインターネットで
調べて上記に。３世紀後半卑弥呼の後の時代　４世紀半ばに　生駒山脈の北端近くの富雄の丘に長尺蛇行剣・盾形
鏡などを副葬する巨大円墳がなぜ造られたのだろうか・・ふと頭に浮かんだ妄想ですが、思いを巡らす。
円墳の頂上部と造りだし部　蛇行剣だと武器ではなく祭祀　男性？ 女性？　と興味深々。
◎大和王権の中枢奈良盆地の南部と富雄丸山古墳が築造された奈良盆地の北西端富雄の関係
真っ先に浮かんだのは大和王権の軍事を担った物部氏との関係 河内湖から大阪湾への北出口？
奈良盆地の南から河内磐船へ抜ける神武天皇東遷の古道、富雄から生駒山を抜ければすぐ河内湖。
大阪湾へ抜ける最短コース。また、物部氏の拠点地域で 東国への出口でもある。
河内へ抜けた河内岩船は物部氏の拠点の一つ。鉄器生産工房がある河内磐船森遺跡。
物部氏や東国と関係が深いともいう前方後方墳がいくつもある。
大和王権の武器庫 物部氏の拠点天理・留ともつながっているではないか・・・。
そんな思いを抱きながら、富雄丸山遺跡の調査の進展に興味津々で眺めています。
2024.4.15. From Kobe Mutsu Nakanishi

資料　ー　日本古代　和　鉄　の　歴　史　ー



1.　縄文晩期～弥生前期　紀元前 2 世紀～紀元 1 世紀　　【鋳造破片再生の時代】

中国・朝鮮半島との交流は縄文時代晩期には既に始まっており、中国にその起源をもつ鉄器が日本に現れ、その後弥生前期には中国で製造された鋳物製の鉄斧などの破片を日本で割るなどの再加工して使用する事が始まる。

2.　弥生時代中期～後期　紀元 1 世紀～3 世紀初頭　　【原始鍛冶の時代】

薄く板状に鋳込み表面脱炭去れた素材が日本に持ち込まれ、曲げなど簡単な鍛冶が行われるようになる。

3.　弥生時代後期以降～古墳時代中期　2 世紀～4 世紀　【鍛打伸展鍛冶の時代】

中国では脆い鋳鉄鋳物ばかりでなく、鉄鉱石を低温還元焼成してつくられた塊状錬鉄が得られるようになり、脱炭鋳鉄と同時に日本にこれらが持ち込まれるようになり、これらを素材とした鍛錬加工（原始鍛冶）がスタートし、次第に本格鍛冶へと移って行く。

4.　古墳時代初頭以降　初期～中期　　3 世紀中半～5 世紀【本格鍛冶の時代】

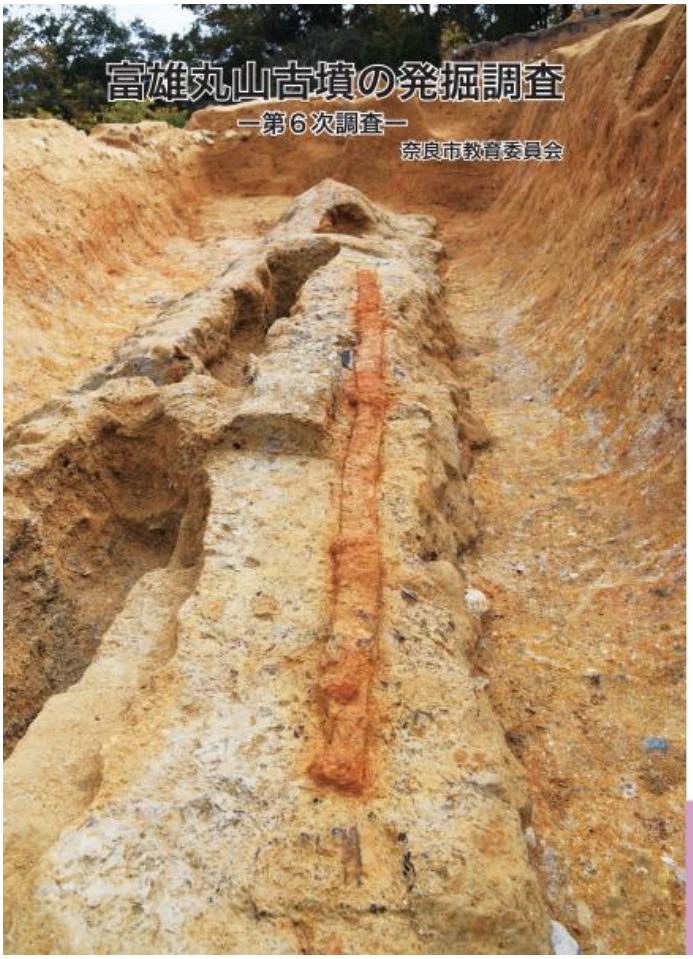
大陸では塊状鉄精錬が本格化し、鍛冶材料として広く流布。朝鮮半島でもこの塊状鉄精錬がスタートしたと見られるが、はっきりしない。

この当時 半島朝鮮半島の南部辰韓・加耶と倭国との交流が始り、4 世紀半ばには加耶が鍛冶加工された薄い鉄板（鉄 ）の供給基地として登場し、渡来人の交流と共に大量の鉄が鍛冶原料として持ち込まれるようになる。当初 3 世紀には北九州に限られた鉄の先進地が 5 世紀には瀬戸内・出雲・吉備・畿内へと東進してゆく。この間日本に於いてはこれら朝鮮半島から持ち込まれた鉄 と共にこの鍛冶・加工に使った鍛冶炉跡や鍛冶滓が大量に見つかるようになる。

5 世紀後半になると畿内には大県遺跡のような大規模な専業鍛冶集団が生まれて勢力を伸ばす。

5.　古墳時代中後期～飛鳥・奈良　5 世紀末～8 世紀【鉄生産・鉄の自給拡散の時代】

その始りはまだはっきりしないが、5 世紀末から 6 世紀初頭にかけて　鉄鉱石原料とした箱型炉による製鉄精錬が日本国内（吉備）で始り、鉄素材の自給が始まった。また　国内に大量



はじめに

富雄丸山古墳は、1972年に奈良県教育委員会が発掘調査を実施し、墳頂部に粘土槨（埋葬施設）のある大型円墳であることが判明しました。明治時代に盗掘された副葬品は、現在京都国立博物館に所蔵され重要文化財に指定されています。奈良市教育委員会では2017年度に航空レーザ測量（第１次調査）、2018年度から発掘調査を行い、直径109mの造出し付円墳（日本最大の円墳）であることがわかりました。

発掘調査成果

造出しの調査

F発掘区　長さ約7.4m、幅約3m、深さ約1mの長方形を呈する墓坑内で長さ約6.4m、幅約1.2mの粘土槨（埋葬施設）を確認しました。造出し上面の礫敷を埋めた面から墓坑が掘り込まれており、墓坑を埋めた後に円丘部２段目斜面を完成させています。そのため、築造当初は計画されていなかったものの、古墳が完成するまでの間に埋葬施設を作るよう計画変更が行われたとみられます。

粘土槨内部には、コウヤマキで作られた割竹形木棺が残存しています。棺身は、墓坑底を一段深く掘りくぼめた部分に設置されているとみられ、棺蓋をのせる位置の約30cm外側の範囲を粘土と砂で薄く整地しています。

円丘部裾の被覆粘土中には、鼉龍文盾形銅鏡１面と蛇行剣１本が副葬されていました。鼉龍文盾形銅鏡は長さ約64cm、幅約31cmで扁平状に棺蓋を覆う被覆粘土の形状に合わせて斜めに立てかけられていました。背面中央に鈕があり、その上下には後漢に認められる鼉龍鏡の図像文様が確認できます。ほかにも鋸歯文を中心とする文様があり、類例のない銅鏡です。表面が平滑に研磨されており、後漢工人が製作したとみられます。

鼉龍文盾形銅鏡をブロック状の粘土で埋めてその上に水平面を作り出し、長さ約267cmの蛇行剣が副葬されていました。日本最大の鉄剣でもあり、蛇行剣としては最古例です。刃部幅は約6cmですが、蛇行しているため部分的に残存する鞘の幅は復元で約9cmあります。柄頭・柄口・鞘口・鞘尻には有機質の装具痕跡が残存していました。

円丘部の調査

A発掘区南拡張区　墳頂部に墳状の遺構があるかを確認するために設定しましたが、確認できませんでした。

U発掘区　第５次調査で一部を確認した溜水施設形埴輪を伴う遺構の再確認を行いました。その結果、埴輪を設置した高まりは２段目斜面に取り付くことがわかり、南東側を溝で区画していることがわかりました。

V発掘区　３段目斜面の葺石は流出していましたが、２段目平坦面の小礫敷が残存していました。また、３段目裾から約4mの位置で円筒埴輪列を確認し、２段目埴輪列が一周めぐっていたことがわかりました。

W・X・Y発掘区　W発掘区では２段目が崩れて埴輪列等が確認できませんでした。X発掘区では１段目平坦面の埴輪列を確認し、Y発掘区では概ね想定位置で古墳の裾を確認しました。

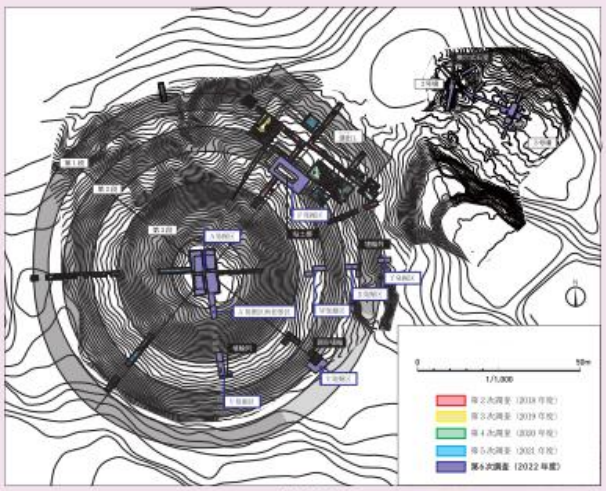
２・３号墳の調査

富雄丸山古墳の北東側隣接地には、1972年に奈良県の発掘調査で確認された富雄丸山２・３号墳があります。２号墳は横穴式石室をもつ６世紀後半の円墳、３号墳は埋葬施設が確認されず不明確でした。奈良市が実施した航空レーザ測量では、２・３号墳が連結するひとつの前方後円墳にもみえることから、旧発掘区の再調査を行いました。その結果、両古墳の間を区画する溝がないこと、３号墳は盛土があるものの埋葬施設がないことが判明しました。測量成果をふまえれば、２号墳が後円部、３号墳が前方部となる前方後円墳である可能性があります。

発掘調査体験×学生との協働調査

約334名の参加を得て発掘調査体験を実施したほか、包括連携協定に基づく奈良大学生、東京・筑波・大阪・京都府立・龍谷大学で古墳研究を行う大学生と協働して発掘調査を実施しました。

富雄丸山古墳の発掘調査
ー第６次調査ー
編集：奈良市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センター　発　行：奈良市教育委員会
〒630-8135　奈良市大安寺西二丁目281番地　発行日：2023年1月27日
TEL　0742-33-1821
表紙写真：造出し上段粘土槨出土の蛇行剣（北西から（F発掘区））



発掘区位置図

鼉龍文盾形銅鏡出土状態（F区）

第６次調査溜水施設（第５次：U区）

1段目埴輪列出土状態（X区）

富雄丸山２号墳の横穴式石室（オルソ画像）

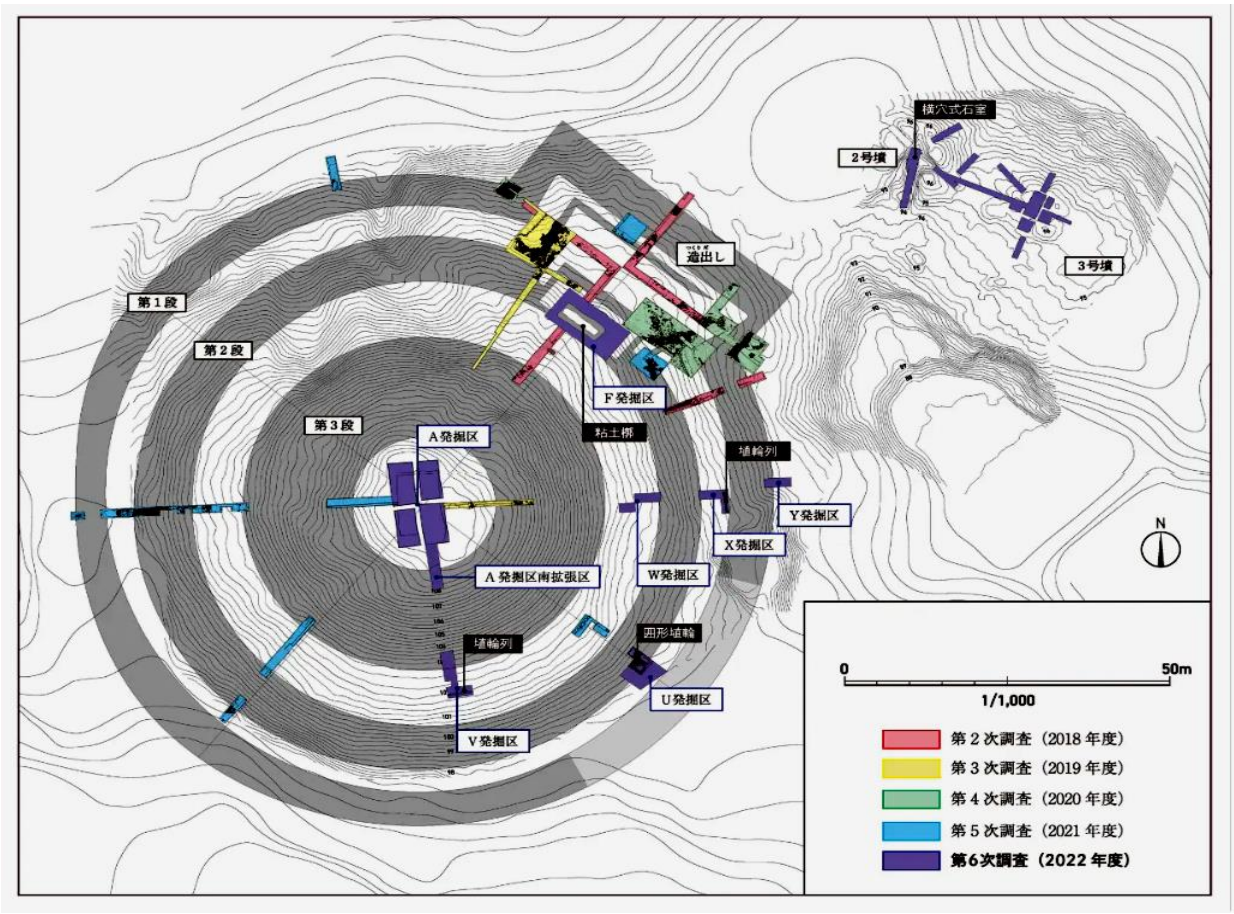
鼉龍文盾形銅鏡（処置前写真）

【参考】整理　　富雄丸山古墳 第６次調査 現地説明会資料　書き写し

2023 年（令和５年）１月 28 日（土）、29 日（日）　奈良市教育委員会文化財課埋蔵文化財調査センタ

はじめに

富雄丸山古墳は、1972 年に奈良県教育委員会が発掘調査を実施し、墳頂部に粘土槨（埋葬施設）のある大型円墳であることが判明しました。明治時代に盗掘された副葬品は、現在京都国立博物館に所蔵され重要文化財に指定されています。奈良市教育委員会では 2017 年度に航空レーザ測量（第１次調査）、2018 年度から発掘調査を行い、直径 109m の造出し付円墳（日本最大の円墳）であることがわかりました。



発掘調査成果

造り出しの調査

F 発掘区　長さ約 7.4m、幅約 3m、深さ約 1m の長方形を呈す墓坑内で長さ約 6.4m、幅約 1．2m の粘土槨（埋葬施設）を確認しました。造出し上面の　礫敷を埋めた面から墓坑が掘り込まれており、墓坑を埋めた後に円丘部 2 段目斜面を完成させています。そのため、築造当初は計画されていなかったものの、古墳が完成するまでの間に埋　葬施設を作るよう計画変更が行われたとみられます。

粘土槨内部にはコウヤマキで作られた割竹形木棺が残存しています。

棺身は、墓坑底を一段深く掘りくぼめた部分に設置されているとみられ、棺蓋をのせる位置の約 30cm 外側の範囲を粘土と砂で薄く整地しています。

円丘部側の被覆粘土中には、鼉龍文盾形銅鏡１面と蛇行剣１本が副葬されていました。

鼉龍文盾形銅鏡は長さ約 64cm、幅約 31cm で蒲鉾状に棺蓋を覆う被覆粘土の形状に合わせて斜めに立てかけられていました。背面中央に紐があり、その上下には和僑に認められる鼉龍鏡の図像文様が確認できます。ほかにも鋸歯文を中心とする文様があり、類例のない銅鏡です。表面が平滑に研磨されており、倭鏡工人が製作したとみられます。

鼉龍文盾形銅鏡をブロック状の粘土で埋めてその上に水平面を作り出し、長さ約 267cm の蛇行剣が副葬されていました。日本最大の鉄剣でもあり、蛇行剣としては最古例です。刃部幅は約 6cm ですが、蛇行しているため部分的に残存する鞘の幅は復元で約 9cm あります。柄頭・柄口・鞘口・鞘尻には有機質の装具痕跡が残存していました。

円丘部の調査

A 発掘区南拡張区　墳頂部に壇状の遺構があるかを確認するために設定しましたが、確認できませんでした。

U 発掘区　第 5 次調査で一部を確認した湧水施設形埴輪を伴う遺構の再確認を行いました。その結果埴輪を設置した高まりは 2 段目斜面に取り付くことがわかり、南東側を満で区画していることがわかりました。

V 発掘区　3 段目斜面の葺石は流出していましたが、2 段目平坦面の小礫敷が残存していました。また、3 段目裾 から約 4m の位置で円筒埴輪列を確認し、2 段目埴輪列が一周めぐっていたことがわかりました。

W・X・Y 発掘区 W 発掘区では 2 段目が崩れて埴輪列等が確認できませんでした。X 発掘区では 1 段目平坦面の埴輪列を確認し、Y 発掘区では概ね想定位置で古墳の裾を確認しました。

2・3 号の調　査

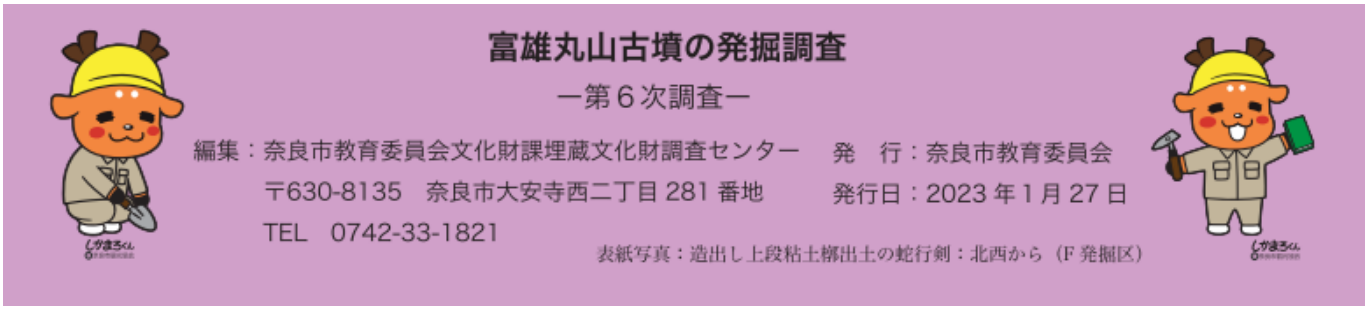
富雄丸山古墳の北東側隣接地には、1972 年に奈良県の発掘調査で確認された富雄丸山 2・3 号墳があります。2 号墳は横穴式石室をもつ 6 世紀後半の円墳、3 号墳は埋葬施設が確認されず不明確でした。

奈良市が実施した航 空レーザ測量では、2・3 号墳が連結するひとつの前方後円墳にもみえることから、旧発掘区の再調査を行いました。

その結果、両古墳の間を区画する溝がないこと、3 号墳は盛土があるものの埋葬施設がないことが判明しました。測量成果をふまえれば、2 号墳が後円部、3 号墳が前方部となる前方後円墳である可能性があります。

発組調査体験。学生との協働

約 334 名の参加を得て発掘調査体験を実施したほか、 協定に基づく奈良大学生、東京、波,大阪,京群 附立,龍谷大学で吉相研究全行う大学生と協歯して治査を実施しました。



【和鉄の道・Iron Road 2024】

鉄のロマン　生駒山地の北端部山麓　奈良市「富雄丸山古墳〔円墳〕」の鉄遺物に接して

【1】[NHK スペシャル] 古代史ミステリー 第 2 集 ヤマト王権 空白の世紀　2024 年 3 月 22 日

「相次ぐ新発見！蛇行剣や盾形銅鏡から見えてきたヤマト王権のすごさ 」を視聴して

https://infokkkna2.com/ironroad2/2024htm/iron20/R0605TomioMaruyamaAweb.pdf

■【映像資料 奈良市富雄丸山古墳出土の鉄遺物 】５分間に凝縮した「Ｎスペ５min」より整理転記

https://www.youtube.com/watch?v=NsMpX5cieuA

NHKスペシャルの魅力を5分間に凝縮した「Nスペ5min.」。

『古代史ミステリー第2集　ヤマト王権　空白の世紀』のダイジェストをご紹介する。

■ 添付 富雄丸山古墳 第６次調査 現地説明会資料　2023. 1.28 & 29. 奈良市教育委員会　埋文センター

https://www.gensetsu.com/20230128_tomio-maruyama/20230128_tomio-maruyama.htm

【2】和鉄の道・Iron Road 資料に見る大和王権による国造りが始まった謎の４世紀　掲載資料の整理

https://infokkkna2.com/ironroad2/2024htm/iron20/R0605TomioMaruyamaBweb.pdf

資料　和鉄の道・Iron「日本の国造りの始まりと鉄」 リンクリスト　2024.4.20.

R0605TomioMaruyamaA.pdf　　2024.4.25.　　by Mutsu Nakanishi